「難病患者の就労困難性に関する調査研究」

(調査研究報告書 No.172)

「正誤表」

2024年3月に印刷しました「難病患者の就労困難性に関する調査研究」(調査研究報告書 No.172)について、一部表記に誤りがありました。

当該報告書(印刷版)について、以下のとおり訂正し、お詫び申し上げます。

なお、当機構ホームページに掲載されているダウンロード版のPDFファイルは、訂正を反映したものではありません。

機構ホームページ掲載場所:

<https://www.nivr.jeed.go.jp/research/report/houkoku/houkoku172.html>

ページ	該当箇所	正	誤
p.123	第12-13行	就労困難性の経験増加との関連 <u>10</u> 項目	就労困難性の経験増加との関連 <u>9</u> 項目
p.135	第2行	問題解決効果 <u>1</u> 項目	問題解決効果 <u>0</u> 項目
p.135	第5-8行	第4節2の一般化線形モデルの分析結果(表 2-4-2-1、表 2-4-2-2)によると、このような配慮や調整があることは「 <u>休職期間が超過して退職・契約非継続となる</u> 」状況の問題解決と関連していた。また、今後の求人応募や就職活動の仕方が分からない問題の解決困難状況とも関連していた($p=0.011$ の参考結果)。	しかし、第4節2の一般化線形モデルの分析結果(表 2-4-2-1、表 2-4-2-2)によると、このような配慮や調整があることは特に就労困難性の予防や問題解決とは直接関係しておらず、むしろ、今後の求人応募や就職活動の仕方が分からない問題の解決困難状況と関連していた($p=0.011$ の参考結果)。